

区民かわら版

新十条通のガザニアが見頃です！

—区民ボランティアと勤修地域女性会の皆さん等との連携事業—

6月1日、区民待望の阪神高速8号京都線稲荷山トンネルが開通しました。伏見区の「鴨川東」出入口から山科区の「山科」出入口をつなぐトンネルは、現在の新十条通に結ばれ新しい山科区の玄関口として利用されることが期待されます。

稲荷山トンネル開通に併せ、新十条通の街路樹ますに植えられたガザニアが、見頃を迎えています。これは、勤修地域女性会の皆さんが、7年前から植栽活動を始められたものです。昨年6月には、「山科区フラワーロード推進事業」の区民ボランティアや一般公募区民の皆さんが、勤修地域女性

会、勤修学区自治連合会、勤修小学校の児童の皆さんと協力し、1,500本ものガザニアを新十条通に植栽しました。これらのガザニアは美しく咲き誇り、新十条通を色鮮やかに彩っています。また、百々学区女性会の皆さんの植栽活動によるマツバギクも見どころの1つです。

「山科区フラワーロード推進事業」では、今後もこうした幹線道路沿いや区役所前広場への植栽活動に取り組んでいきます。

問合せ先 区まちづくり推進課(☎592-3088)



山科区 農作物などの品評会や 展示・即売

区内で栽培された旬の新鮮で高品質な農作物を中心に、品評会や展示・即売等を行います。

品評会に向けて手塩にかけて育てられた農作物は、大変好評をいただいています。今年も夏野菜や果物、米、切花、鉢物、花の苗など多数の展示・即売を予定しています。

皆さんお誘い合わせのうえお越しください。

日時 7月19日(土) 午前10時～午後3時



30分

(販売は午後2時から整理券を配付し、3時から開始します。できれば買い物袋をお持ちください。)

場所 区役所前広場

問合せ先 東部農業指導所(☎641-4340)

第32回 区民壮年ソフトボール大会 優勝は大塚体育振興会チーム



5月11日に勤修寺公園グラウンドで開催された区民壮年ソフトボール大会は、11学区の体育振興会チームが出場し、多くの声援の中、熱戦が繰り広げられました。

優勝 大塚体育振興会チーム
準優勝 山階南体育振興会チーム
三位 鏡山体育振興会チーム
三位 小野体育振興会チーム

残したい 山科の自然

～区民の誇りの木～
小野葛籠尻町 カヤ(いちい科)
常緑高木 高さ13.0m 幹周4.60m

カヤは、本州の南部以南にみられる樹木で、成長は極めて遅いが寿命は長く、日の当たらないところでも育ちます。以前、この辺一帯はカヤの古木が多くありましたが、道路や河川整備、台風や落雷などでその数は減少し、現在は2本を残すだけです。深草少将が小野小町の下に通ったという「百日通い」の伝説とともに語り継がれ、地元の人に大切にされています。



ホタル 飛遊調査にご協力を

ホタルは環境に影響されるため、自然が消えつつある場所においては、生息できません。昨年のホタルの飛遊調査の結果から、山科区には、ホタルの暮らす自然環境が残されていることが分かっています。

やまなホタルネットワークでは、ホタルの保護や自然環境に興味をお持ちの個人、団体と連携し、様々な取組を行っています。昨年の飛遊調査では、音羽川で最も多くの生息数が確認され、四ノ宮川では2年ぶり、高川では3年ぶりに飛遊が確認されました。

今年も、山科・醍醐地域の河川流域のホタルの飛遊調査を行います。「ホタル調査シート」を青少年活動センターと山科区役所まちづくり推進課で配布していますので、区民の皆さんの協力をお願いします。

問合せ先 山科青少年活動センター(☎593-4911、FAX593-4916)

山科の古代を探る

第3回 坂上田村麻呂の墓

794年、平安遷都の詔が發布されたまさにその日に、征夷大將軍大伴弟麻呂(おとおものおとまろ)は蝦夷との戦いに勝利したことを報告した。造都と戦争は桓武朝の二大事業であった。朝廷は東北蝦夷戦争にずっと苦戦してきたが、ようやく優位に立つことになったのである。

この勝利を支えたのが、副將軍の坂上田村麻呂(さかのうえのたむらもろ)であった。田村麻呂は渡来氏族・東漢氏の出身で、馬の調教という家業を身につけていたことが、機動的な蝦夷騎兵を破る

のに大きな役割を果たしたと考えられる。797年と801年の2度にわたって、彼は征夷大將軍に任命され、続けて勝利を収めると、北の守りとして胆沢城・志波城(現岩手県奥州市・盛岡市)の建設を進めていった。

坂上田村麻呂はその後、薬子の変でも功績をあげ、嵯峨天皇に重んじられたが、811年、大納言・右近衛大將という高い官職についたまま亡くなった。葬礼は莊重に執り行なわれ、「山城国宇治郡栗栖村」に墓が築かれた。勅によって甲冑や銅鉾・弓矢などが副葬され、田村麻呂は「城東」に向かって立ったまま葬られたと伝える。

やがて時とともに、田村麻呂の墓は忘れられていった。しかし1973年、地元の歴史研究者・鳥居治夫氏は、『清水寺縁起』に見える墓の

位置を考証し、西野山古墳がこれにあたるという学説を発表した。その後の研究によって、鳥居説はさらに確実性を増している。西野山古墳は、西野山岩ヶ谷町の山林にある墳墓遺跡である。山科盆地を見下ろす丘陵東斜面に墓穴を掘り、木棺のまわりには木炭が分厚く充填されていた。正倉院宝物に匹敵する大刀・鏡や矢じりなどが見つかり(国宝に指定、現在は京都大学所蔵)、平安初期の上級貴族の墓と考えられてきた。それが文献史料の読み直しによって、坂上田村麻呂の本当の墓であることが有力視されるようになったのである。なお、勤修寺東栗栖野町の「坂上田村麻呂墓」は江戸時代に考証され、顕彰されてきた史跡である。たとえ本当の墓が別にあったとしても、山科の近世・近代史を考え



る上では大切な歴史遺産と言えます。

西野山古墳は、西野山から今熊野に抜ける滑石越の登り口を押さえる場所にある。滑石越は東から平安京に入る際の正式ルートと考えられているが、坂上田村麻呂は死後もこの地において、坂東や東北の勢力から王都を守護し続けているのであろうか。

京都大学大学院文学研究科
吉川真司准教授執筆